



現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

◆市民の移動手段の確保と魅力ある移動空間の形成

- 横浜市ではバスネットワークが広く整備されていますが、人口減少やライフスタイルの変化による利用者の減少とともに、厳しい経営状況や労働環境の変化等を背景とした深刻な運転士不足により、公共交通のサービス水準を維持することが困難な状況となっています。
- 駅やバス停から離れた交通空白地が点在していることや、起伏が多い横浜市の地理的特性を踏まえると、バスやタクシーなど既存の公共交通に加え、地域に身近な新たな地域交通サービスを導入し、市域全体で充実を図ることが重要です。
- 幹線道路の慢性的な渋滞により、周辺への通過交通の流入や救急活動への影響が懸念されています。
- 鉄道や道路など交通ネットワークの整備効果を最大化するためには、周辺の土地利用も一体的に進め、沿線・沿道の活性化につなげていくことが重要です。
- 公共交通機関を補完するシェアサイクル事業では、多様な利用目的に対応するための事業展開が重要です。また、快適で出かけたい魅力ある空間形成への対応が重要です。

目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- 市域全体で地域公共交通が充実しているとともに、快適に移動できる自転車・歩行者空間と、身近な移動手段が確保され、誰もがいきいきと安心して暮らせるまちを実現しています。
- まちづくりと一体となった交通ネットワークの構築や渋滞対策が進むことで、移動の利便性が高まり、市民生活や企業活動が活性化しています。

政策指標 - 市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標 -

鉄道やバスなどの公共交通機関が
便利なまちだと思いますか

77.6%



公共交通の維持・充実等に向けた取組に関連する
主な個別分野別計画等

横浜都市交通計画

横浜市地域公共交通計画



関連するSDGsの取組



施策群 施策指標 - 2029(令和11)年度に向けて進捗管理し、成果発揮を目指す指標 - を設定

20 市民の移動手段の確保

方向性

誰もがいきいきと安心して暮らせるまち、出かけたいまちの実現に向け、バスネットワークの維持や交通空白地の解消、地域公共交通への自動運転技術の導入支援など、地域交通を「守る」、「増やす」、「使う」取組を推進するとともに、シェアサイクルなど多様な魅力的な移動手段の充実や、居心地が良く歩きたい空間の整備を推進します。

また、市民生活の利便性の向上や地域経済の発展に向け、高速鉄道3号線の延伸をはじめとした交通ネットワークの強化や渋滞対策、沿線・沿道の活性化につながるまちづくりを進めます。

指標

バス運転士数充足率 (2024(令和6)年度の運転士の定員数 に対する割合)【道路・交通政策局】	現状 94.3% (R6時点)	目標 100%	市営バス・地下鉄を安心して利用で きると答えた市民の割合【交通局】	現状 79.4%	目標 維持・増加 79.4%以上
交通空白地の解消 (市域面積に対する交通空白地の割合) 【道路・交通政策局】	現状 11%	目標 半減	シェアサイクル普及率 【道路・交通政策局】	現状 1.39%	目標 2%
外出が増加した地区数 【道路・交通政策局】	現状 -	目標 53地区	市内の主要渋滞箇所数 【道路・交通政策局】	現状 118箇所	目標 1割減少

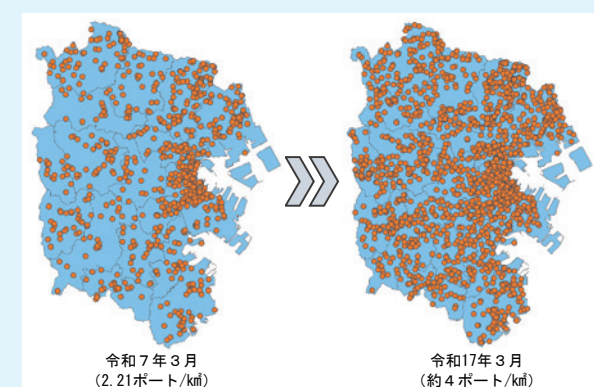
関連データ等

●都市構造図(都市計画マスタープラン)



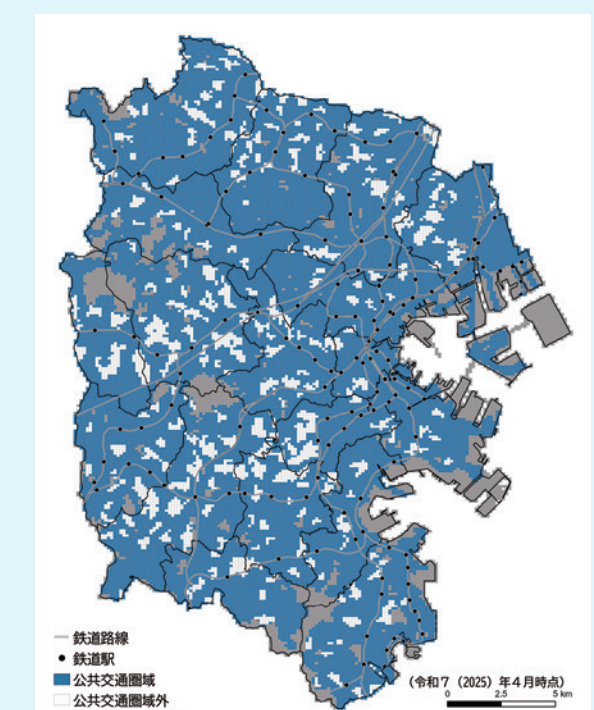
出典：都市整備局

●シェアサイクル事業の今後の展開(ポート分布)



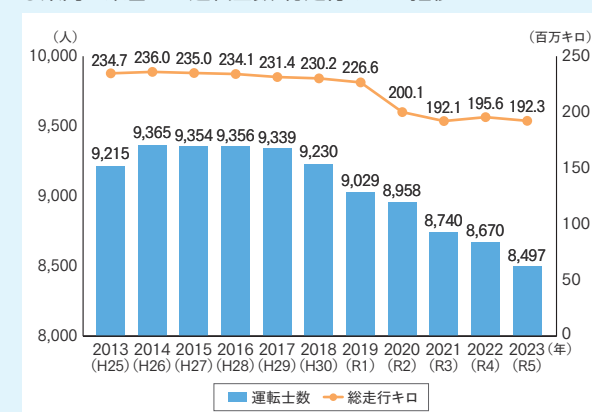
出典：道路・交通政策局

●公共交通圏域図(125mメッシュ)



出典：道路・交通政策局

●県内の乗合バス運転士数・総走行キロの推移



出典：神奈川県バス協会